

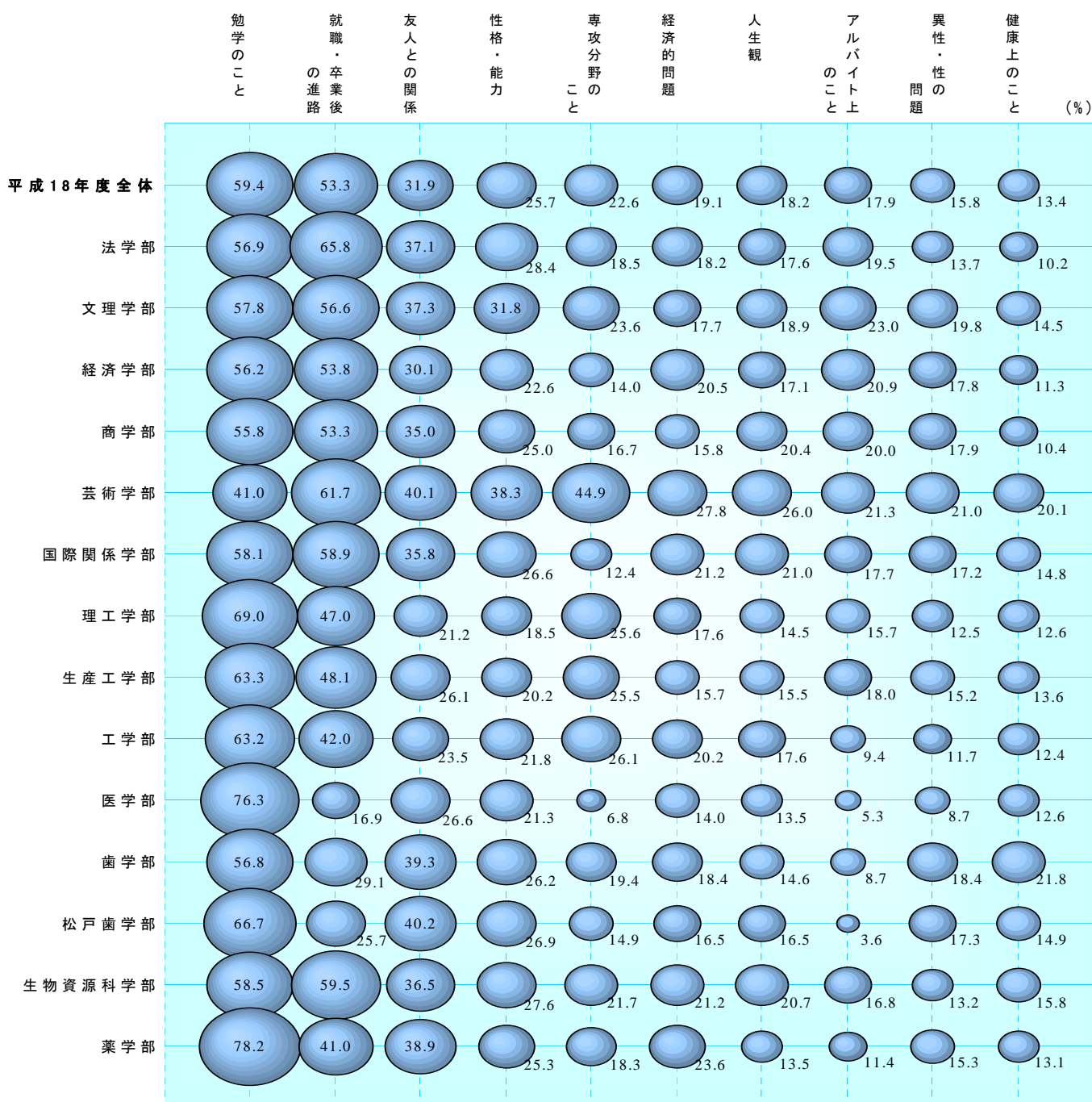
## 第5章 学生が抱える不安・悩み・トラブル

### 1.不安・悩み・トラブルの内容

日大生の不安・悩みは、「勉学のこと」が59.4%でトップ。「進路」が53.3%で続く。薬学部と医学部は「勉学」、法学部は「進路」が主要な悩み。芸術学部は多分野で悩み。

在学中に経験した不安・悩み・トラブルなどを全体で見ると、「勉学のこと」が59.4%で最も高く、「就職・卒業後の進路」が53.3%となっており、本学学生にとって勉学と進路が主要な悩みとなっています。「友人との関係」は31.9%と3番目、次いで「性格・能力」(25.7%)、「専攻分野のこと」(22.6%)となっており、「経済的問題」を挙げた学生も19.1%と少なくありません。

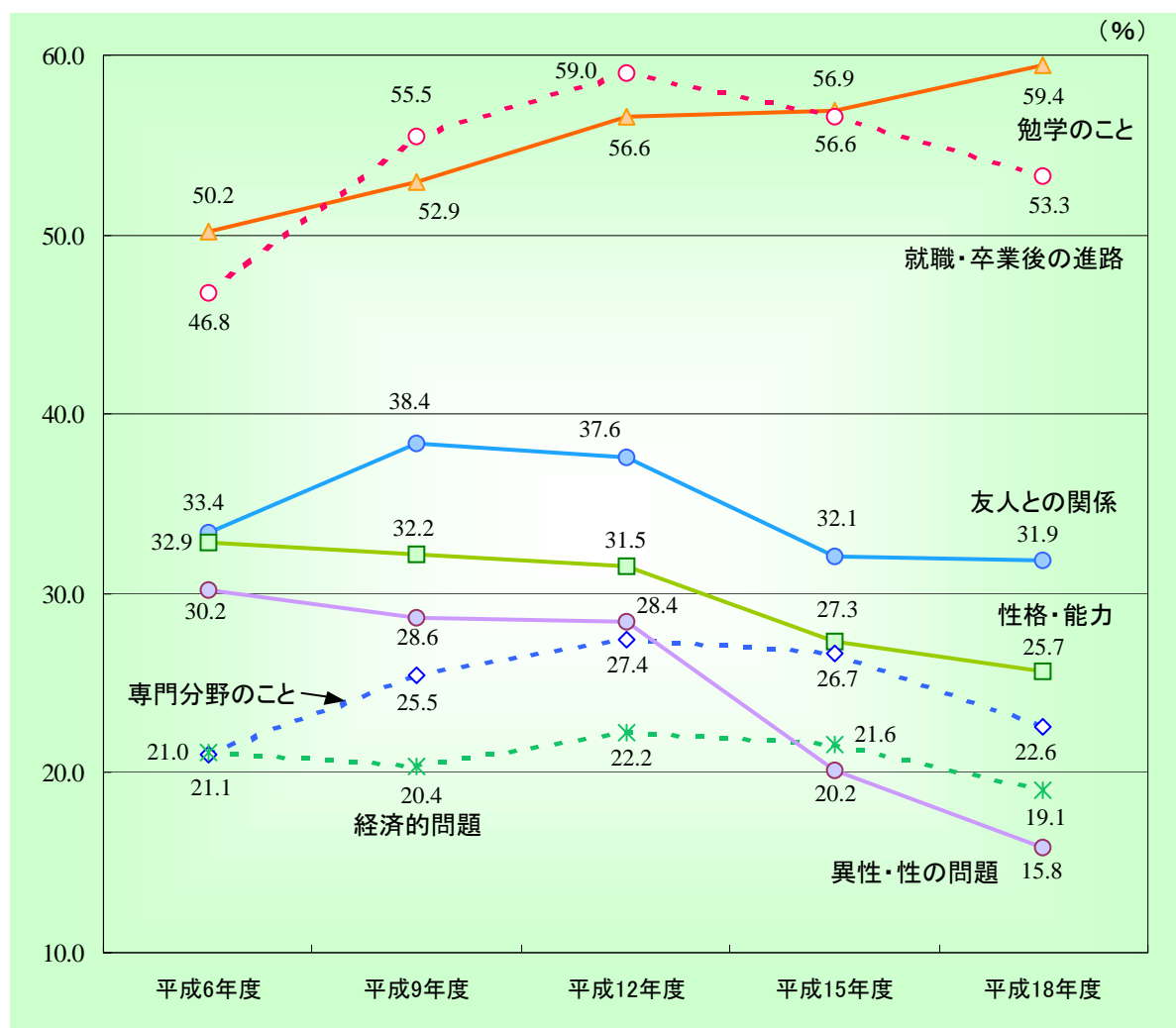
薬学部と医学部では「勉学のこと」が約8割で断トツ、法学部・芸術学部では「進路」が6割強でトップとなっています。芸術学部では「専攻分野」「性格・能力」など5項目で14学部中最も高くなっており、さまざまな悩みを抱えているようです。



## 2.不安・悩み・トラブルの内容－主なものの経年変化

「勉学」についての不安・悩みの増加傾向が目立つ。他の悩みは減少傾向。  
勉学意識の高まり、交友関係の変化などを反映？

学生の抱える不安・悩みなどの主なものの経年変化を見ると、「勉学のこと」が平成6年の50.2%から逡増し、12年間で9.2ポイント増加しています（医学部・経済学部・松戸歯学部・文理学部・薬学部では13ポイント以上増）。「就職・卒業後の進路」は平成6年から平成12年まで急増し、学生の悩みのトップでしたが、平成12年度をピークに減少に転じ、今回5.7ポイント減で「勉学」を下回っています（工学部・医学部・経済学部・生物資源科学部で10ポイント以上減と顕著）。「友人との関係」は平成9年をピークに逡減傾向、また「異性・性の問題」は平成6年度から大きく減少傾向を示しています。学内で一緒に過ごす友人の少人数化などと共に、学生の交友関係が大きく変化してきていることがうかがえます。「性格・能力」も同様の傾向が表われているといえます（国際関係学部・医学部・生物資源科学部では20ポイント以上減）。様々な手口の悪徳商法が横行する世相に反して、「経済問題(トラブル)」は平成15年度から減少傾向にあります。総じて見ると、日大生全体の勉学意識の高まり、交友関係の変化などが、学生の抱える不安や悩みに影響を与えているものと思われる。

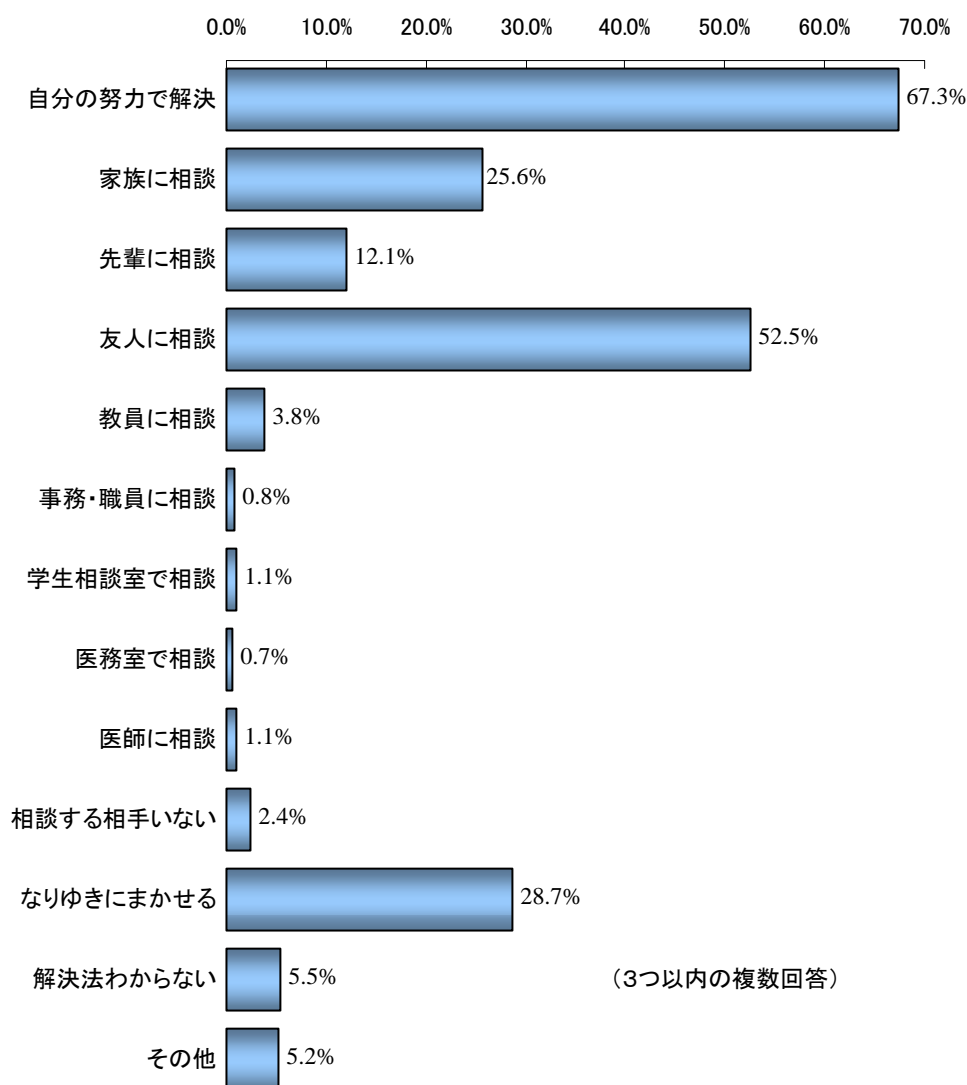


### 3.不安・悩み・トラブルの解決方法

不安・悩みは「自分の努力」で解決が3分の2。  
相談相手は友人、家族、先輩の順。教員を始め大学関係者の敷居は高い？

不安・悩みの解決方法について3つ以内の複数回答の結果を見ると、「自分の努力で解決」するが67.3%となっています。「友人に相談」が52.5%、「家族に相談」が25.6%、「先輩に相談」が12.1%となっています。不安や・悩みに対しては自助努力が主体となり、身近に感じる人に相談するというパターンが見られます。

「勉学について」の悩みがトップでしたが、教員に相談する学生は3.8%とかなり低く、学生と教員の関係の希薄さを感じられます。相談相手として、医務室、事務・職員、学生相談室は1%前後となっており、大学関係者や窓口の活用率は低いといえます。

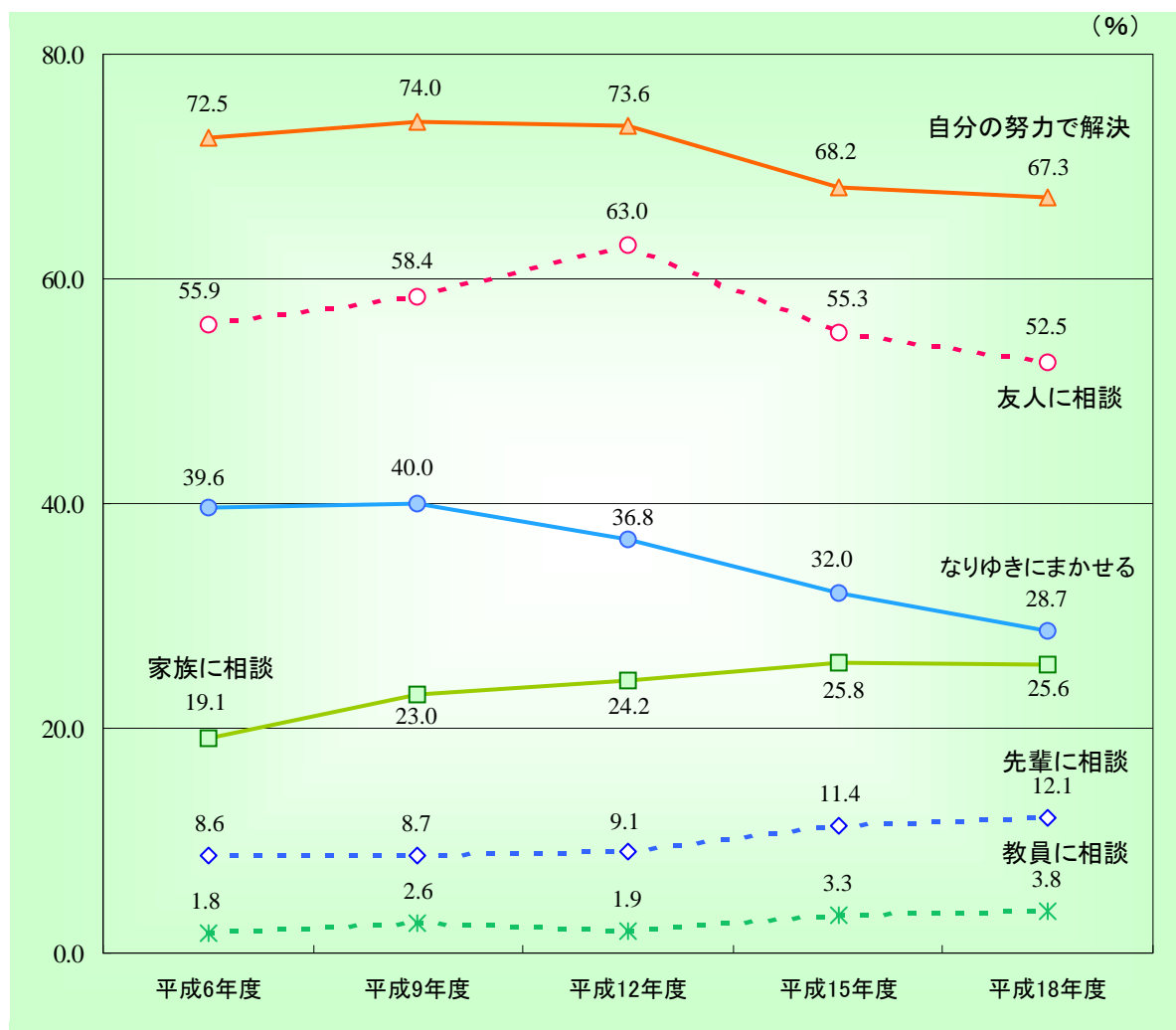


#### 4.不安・悩み・トラブルの解決方法－主な解決方法の経年変化

自助努力による解決となりゆきまかせが減少。より信頼できる相談相手を選ぶ傾向。  
背景に学生の抱えている問題の複雑化？

経年変化を見ると、「自分の努力で解決」は平成9年度の74.0%をピークに9年後の今回は6.7ポイント減、同様に「なりゆきまかせ」も40.0%から11.3ポイント減となっています。自助努力やなりゆきまかせでは解決できない、学生が抱える問題が複雑化しているといった背景が考えられます。

「友人に相談」は、先にも取り上げた近しい友人の少人数化も影響して、平成12年度の63.0%から6年間で10.5ポイント減少しています。一方、相談相手として「家族」「先輩」「教員」は微増傾向にあります。最近の傾向として、より経験があり信頼の置ける人に相談する必要性が増してきているのではないかと推察されます。

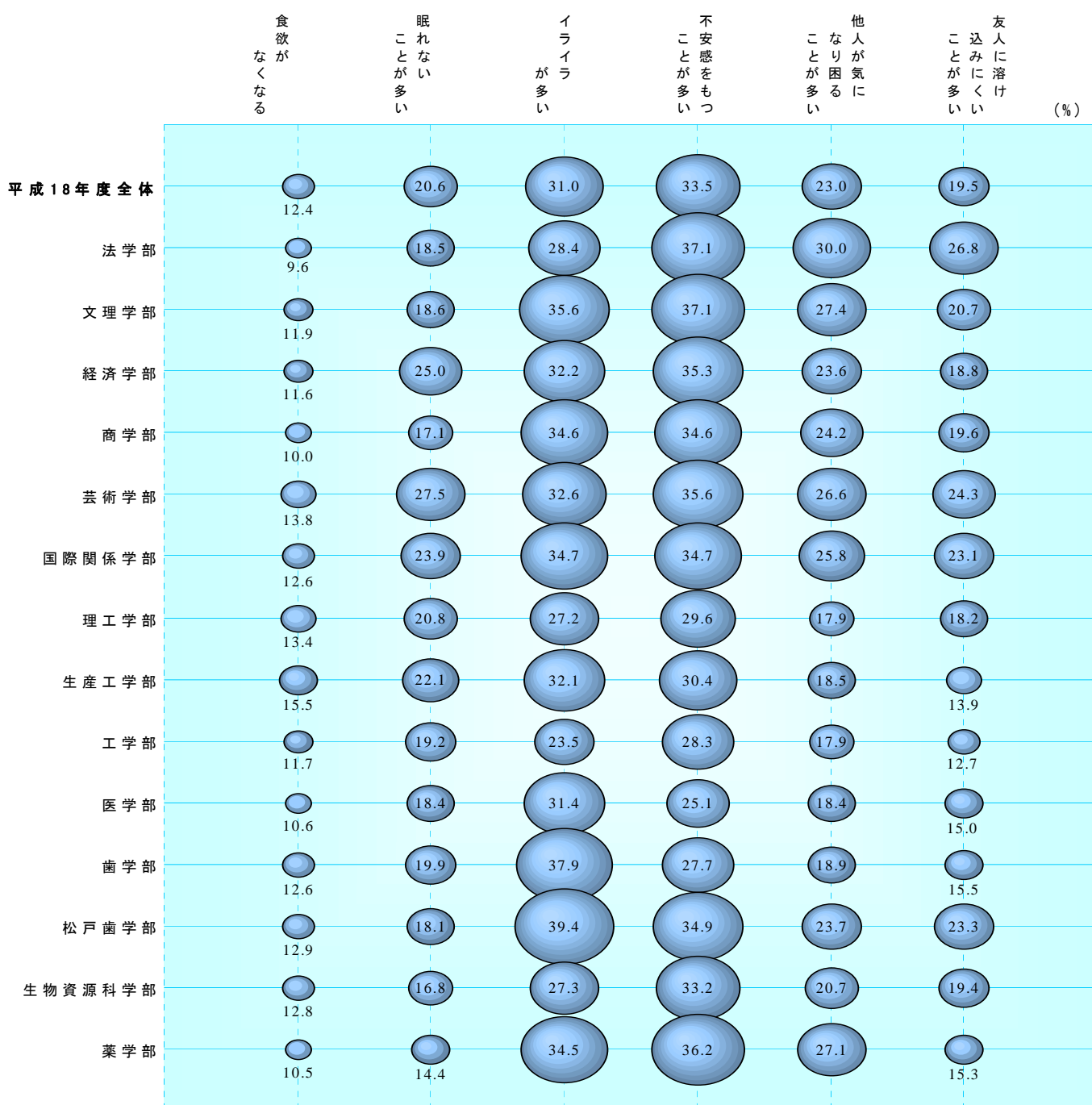


## 5.日常生活での不安感

日常生活に「不安感をもつことが多い」学生が33.5%、「イライラが多い」学生が31.0%。  
学部間の差は大きくないが、不安感などは法学部の学生が高く、工学部は低い傾向。

全体で見ると、日常生活に「不安感をもつことが多い」学生が33.5%、「イライラすることが多い」学生が31.0%、「他人が気になり困ることが多い」「眠れないことが多い」「友人に溶け込みにくいことが多い」も20%前後となっています。

学部間で大差は見られませんが、「不安感」「他人が気になる」「友人に溶け込みにくい」の3項目で法学部が、「イライラが多い」で松戸歯学部が最も高くなっています。工学部は「イライラ」「他人が気になる」「友人に溶け込みにくい」の3つの項目で最も低く、残りの項目でも平均を下回っており、精神面でのストレスを抱えている学生の比率が最も低くなっています。

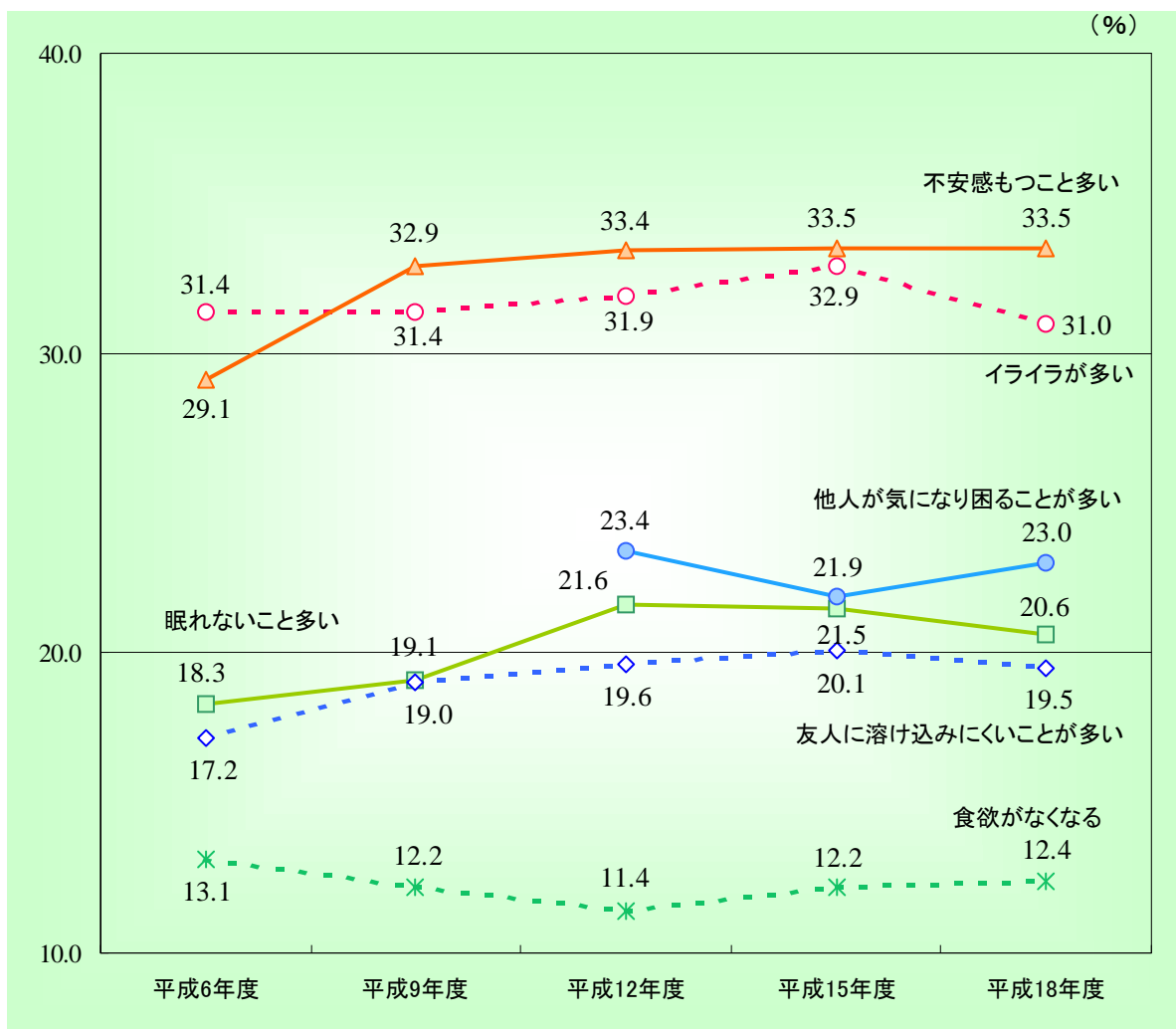


## 6. 日常生活での不安感－経年変化

12年前と比較して「不安感」をもつ学生の比率がやや増加。「イライラ」は横這い。学生がメンタル面で抱く問題について、目立った変化は見られない。

平成6年度からの経年変化を見ると、日常生活で「不安感をもつことが多い」学生が平成9年度に約4ポイント増加し、その後は横這いとなっています。「イライラが多い」学生は平成6年度から30%強でほぼ横這いとなっていますが、今回は3年前より1.9ポイントとわずかに低下しています。平成6年度は「イライラ」が「不安感」をやや上回っていましたか、平成9年度以降は順位が逆転しています。

「他人が気になり困ることが多い」学生は、平成12年度に比べるとわずかに低下していますが、法学部では10.7ポイント上昇し30.0%になっています。「眠れないことが多い」学生は平成12年度の21.6%をピークに僅かに減少傾向にあります。昨今、「振り込め詐欺、マルチ商法の横行、倫理観の欠如による殺傷事件」などが多発し学生を取り巻く社会状況が悪化傾向にあっても、それによる影響は認められず、学生がメンタル面で抱く問題はあまり変化していません。

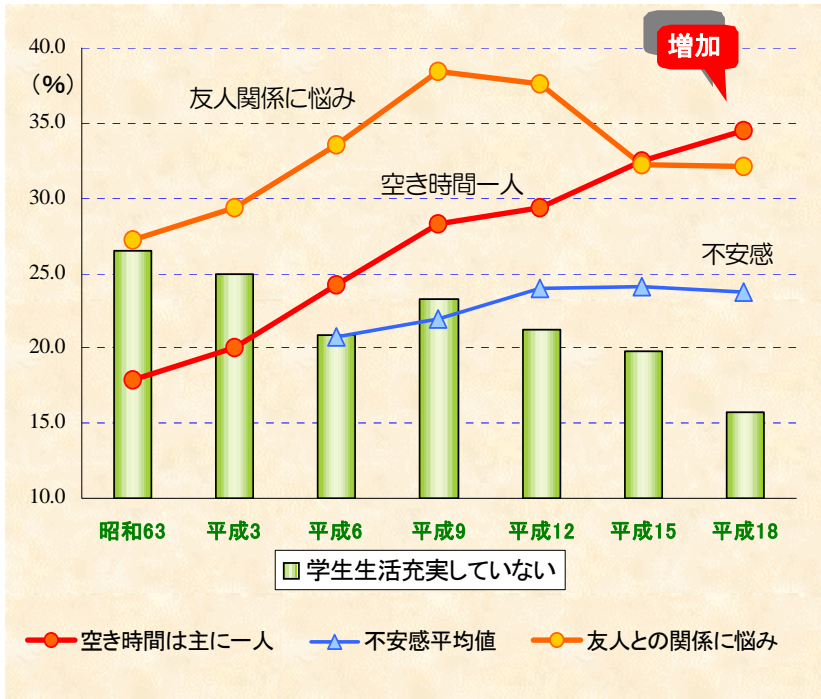


## 友人関係と学生生活の充実度

ここでは、友人などとの人間関係や学生生活の充実度を3年ごとの変化で見ます。

### 経年変化

調査が開始された昭和63年から変化が顕著に見られる項目のひとつは、空き時間に過ごす友達の数です。「主に一人で過ごす」と答えた学生の比率は年々増えつづけ、平成18年には3人に1人までになり、学生は孤立化しているかのように見られます。しかし、「友人関係」に不安や悩みを抱えている学生は平成12年から減少に転じています。携帯電話の急速な普及により、友人とのコミュニケーションの方法が大きく変化しており、友人関係はむしろ円滑になってきているように思われます。「不安感」をもつ学生の比率も平成12年度をピークに横這いです。学生生活の充実度を見ても「充実していない」と回答した学生は年々減少しています。キャンパス風景も、文科系はひとり行動が当たり前となっています。従って、孤立化というより「マイペース型」の学生が増加していると解釈できるでしょう。「自分を大切にする生活スタイルの追求」という現在の一般の風潮を反映している結果なのかもしれません。



※「不安感」とは:「食欲がなくなる」「眠れないことが多い」「イライラが多い」「不安感もつことが多い」「他人を気にして調和とれず」「友人に溶け込めない」この6つの項目の%の平均値。(表現に若干の変更あり)

※「学生生活充実していない」とは:「あまり充実していない」「全然充実していない」この2つの項目の合計値。

### 平成18年度学部別

#### 補足: 空き時間に過ごす友達の数

学部別に見ると、空き時間を主に一人で過ごす学生の割合が最も高いのは法学部で、53.4%と唯一半数を超えています。さらに芸術学部や文理学部も一人で過ごす学生の割合が高くなっています。

逆に空き時間を主に4人以上で過ごす、という学生の割合が最も高いのは薬学部で、47.2%とほぼ半数となっています。理工学部・生産工学部・工学部の工学系の学部も30%以上と高くなっています。空き時間を一緒に過ごす人数は、学部の男女比率よりも学部の環境や性質などによる差の方が大きいようです。

